

「おくのほそ道」定期テスト対策練習問題①

年	組	番	名前
---	---	---	----

問1 「おくのほそ道」の作者を漢字で答えなさい。

問2 「おくのほそ道」について説明している次の文の（ア）～（カ）に当てはまる言葉を答えなさい。

「おくのほそ道」は、（ア）時代前期の俳人である松尾芭蕉の代表的な（イ）文の一つである。松尾芭蕉は（ウ）俳諧の創始者である。
 「おくのほそ道」は、（エ）二年に松尾芭蕉が（オ）を出発し、弟子の（カ）とともに美濃国大垣に至る行程約二千四百キロメートル、百五十日を超える旅行の体験や見聞を記したものである。

- | | | |
|-----|-----|-----|
| 【ア】 | 【イ】 | 【ウ】 |
| 【エ】 | 【オ】 | 【カ】 |

問3 俳句について説明している次の文の（ア）～（エ）に当てはまる言葉を答えなさい。

「俳句」は、五・七・五の（ア）と七・七の（イ）とを交互に連ねて作る「俳諧の（ウ）」の最初の一句のことである（エ）と江戸時代ではよばれていた。

- | | |
|-----|-----|
| 【ア】 | 【イ】 |
| 【ウ】 | 【エ】 |



おくのほそ道の古文について、あとの問いに答えなさい。

月日百代の①^{ほくたい}過客^{くわかく}にして、行きかふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口②とらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして旅をすみかとする。古人も多く旅に死せるあり。予も③いづれの年よりか、片雲の風に④さそはれて、漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへて、A 去年の秋、⑤^{かうじやう}江上の破屋に蜘蛛の古巢をはらひて、やや年も暮れ、春立てる霞の空に白河白河の関⑥越えむと、そぞろ神の物につきて心をくるはせ、⑦^{だうそじん}道祖神の招きにあひて、取るもの手につかず、B 股引の破れをつづり、笠の緒付けかへて、三里に灸すゆるより、松島の月まづ心にかかりて、住めるかたは人に譲りて、杉風がC 別墅に移るに、草の戸も住み替はる代ぞ雛の家
面八句を庵の柱に懸け置く。

問4 次の古語の意味を答えなさい。

ア：百代
イ：過客

【ア】

【イ】

問5 「古人」の意味として正しいものを次の中から選び○で囲みましょう。

ア：古くからの知り合い
イ：亡くなった人
ウ：昔の人
エ：幼なじみ



問6 ①から⑧を、現代仮名遣いに直してすべて平仮名で答えなさい。

【①】

【②】

【③】

【④】

【⑤】

【⑥】

【⑦】

【⑧】

問7 ここでの「古人」の指す人物として、次の中から当てはまるものをすべて選び○で囲みましょう。

ア：曾良

イ：秀衡

ウ：李白

エ：杜甫

オ：杉風

カ：宗祇

問8 A～Cの漢字の読みを答えなさい。ただし、Cは現代仮名遣いに直して答えること。

【A】

【B】

【C】

問9 「漂泊の思ひ」とあるが、松尾芭蕉のどのような思ひを表しているか。最も正しいものを次の中から選び○で囲みましょう。

ア：舟に乗りたい思ひ

イ：古人の別荘に泊まりたい思ひ

ウ：あてもない旅に出たい思ひ

エ：思ひのままに時を過ごしたい思ひ

問10 「漂泊の思ひ」とあるが、松尾芭蕉は具体的にどのようにしたいと考えているか。古文の中から7字で抜き出して答えなさい。



問11 「江上の破屋」と同じ意味をもつ言葉を3つ、5字と3字と1字でそれぞれ古文の中から抜き出して答えなさい。

問12 「草の戸」と対照的に使われている言葉を古文の中から抜き出して答えなさい。

問13 松尾芭蕉が旅の準備としてとった行動を、古文の中の言葉を使って3つ答えなさい。

問14 次のものと対句になっている部分を、それぞれ古文から抜きだして答えなさい。

- 【ア】 月日は百代の過客にして
- 【イ】 船の上に生涯を浮かべ
- 【ウ】 そぞろ神の物につきて心をくるはせ
- 【エ】 股引の破れをつづり

【ア】

【イ】

【ウ】

【エ】

問15 作者自身のことを差す言葉を、古文の中から抜きだして答えなさい。



問16 この古文から読み取れる作者の人生観として最も正しいものを、次の中から
選び○で囲みましょう。

ア：人生とは、旅である。

イ：時の移り変わりは無常である。

ウ：栄えるものも必ず滅びる。

エ：貧しさの中でも、楽しみを見つけるべきだ。

問17 「草の戸も住み替わる代ぞ雛の家」の【季語】と【季節】、【切れ字】を
答えなさい。

【季語】

【季節】

【切れ字】



「おくのほそ道」定期テスト対策練習問題（解答）①

問1 松尾芭蕉

問2 【ア】江戸 【イ】紀行 【ウ】蕉風
【エ】元禄 【オ】江戸 【カ】曾良

問3 【ア】長句 【イ】短句 【ウ】連歌 【エ】発句

問4 【ア】永遠 【イ】旅人

問5 ウ

問6 【①】かかく 【②】とらえて 【③】いずれ
【④】さそわれて 【⑤】こうしょう 【⑥】こえん
【⑦】どうそじん 【⑧】きゅう

問7 ウ・エ・カ

問8 【A】こそ 【B】ももひき 【C】べっしょ

問9 ウ



問10 白河の関越えむ

【解説】「漂泊の思ひ（い）」とは、あてもない旅に出ることを意味する。
旅に出るには、奥州への関所である白河の関を越える必要がある。

- 問11
- ・住めるかた
 - ・草の戸
 - ・庵

問12 雛の家

【解説】草の戸は、「わびしい」状態の家を表現しているのに対して、「雛の家」は雛人形を飾るような「華やか」な状態を表している。

- 問13
- ・股引の破れをつづる
 - ・笠の緒を付けかえる
 - ・三里に灸をすえる
- ※順不同

- 問14
- 【ア】行きかふ年もまた旅人なり 【イ】馬の口とらへて老いを迎ふる者は
【ウ】道祖神の招きにあひて、取るもの手につかず
【エ】笠の緒つけかへて

問15 予

【解説】「予もいづれの年よりか」の「予」とは、「私」の意味。

問16 ア

- 問17 【季語】雛 【季節】春 【切れ字】ぞ

